

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	北区
学 校 名	中之島小学校
学校長名	楠井 誠二

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・中之島小学校では、第6学年 66名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数、理科ともに平均正答率が全国平均を上回った。算数、理科については領域ごとの正答率もすべて全国平均を上回っていた。国語については、平均正答率では、全国平均を大きく上回るものの、「情報の扱い方」と「言語文化」の領域では大阪市平均、全国平均を下回っていた。また、無回答率が全国平均と比べて、かなり低い傾向にある。質問紙については、いずれの質問に関しても、概ね肯定的に回答する児童の割合が高い傾向が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

「知識及び技能」の分野では、非常に高い平均正答率を達成しており、基礎的な知識がしっかりと定着しているといえる。一方で、「情報の扱い方に関する事項」と「言語文化に関する事項」の平均正答率が大阪市、全国平均を下回っている。特に、情報処理能力については課題が見られる。また、「書くこと」について、平均正答率は大阪市、全国平均を上回っているものの、全体の平均正答率と比較すると低い傾向が見られることから、「書く」ことに関して苦手意識をもつ児童が一部いると推測される。

【算数】

平均正答率で、大阪市、全国平均を大きく上回っており、基礎学力と応用力が身に付いているものと考えられる。しかしながら、「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題」について、「よくできた」と回答した児童は85.5%と、大阪市、全国平均を大きく上回るものの、「まったくできなかった」という児童の割合が高くなっており、記述式の問題に苦手意識をもつ児童が一定数いることが窺える。

【理科】

全体の平均正答率は、大阪市、全国平均を大きく上回っているが、「思考・判断・表現」の平均正答率が、他の領域と比べて低くなっている。特に、「実験の結果から、変化のきまりを見出し、表現する」問題の正答率が、理科全体の平均正答率と比べるとかなり低い。また、「エネルギー」分野の平均正答率も、大阪市、全国を上回っているものの、全体の平均正答率と比較すると低い傾向にある。

店頭

質問調査より

全体的に肯定的な回答が多かった。特に、質問27、37については、大阪市、全国平均を大きく上回っており、総合的な学習の時間において、体験的な学習を重視するとともに、社会課題を取り扱った探究的な学習活動に取り組んできたことが成果として表れているものと考えられる。また、質問35、39についても、協働的な学習をめざして授業改善に取り組んできたことが結果として表れたものと考えられる。一方で、質問7「将来の夢や希望を持っていますか」については、平均を下回っており、学習活動における成果が必ずしも児童のキャリア発達に結び付くものではないということが窺える。

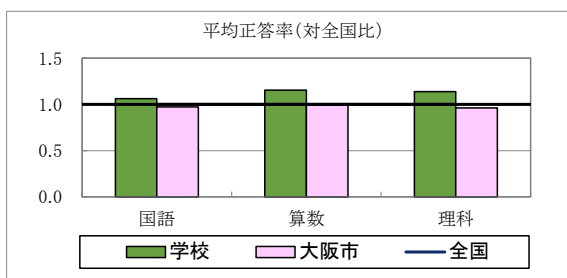
今後の取組(アクションプラン)

文章や図表から必要な情報を効率的に読み取り、整理する練習を日常的に取り入れていくことで情報処理能力の強化につなげる。また、記述式問題においては、単に答えを書くだけでなく、「理由」や「根拠」を明確に記述するようにし、「なぜその答えになるのか」を常に意識させるようにすることで、論理的な思考力と表現力の向上をめざす。記述式問題に対する苦手意識を払拭するためには、個別のフィードバックの強化が必要であり、個々の状況に応じた指導法の工夫が求められる。個別最適な学習活動を適切に取り入れ、児童一人ひとりの課題の解決を図る必要がある。

【 全体の概要 】

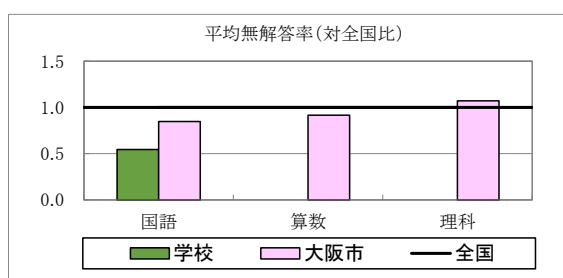
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	71	67	65
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



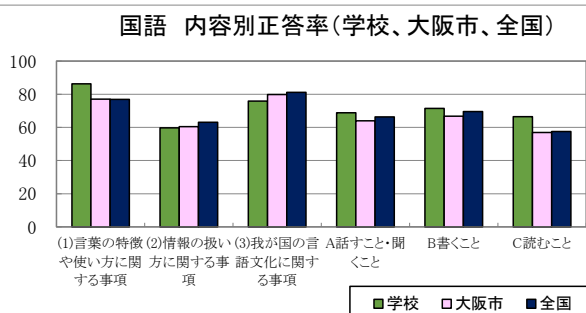
平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	1.8	1.6	1.1
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



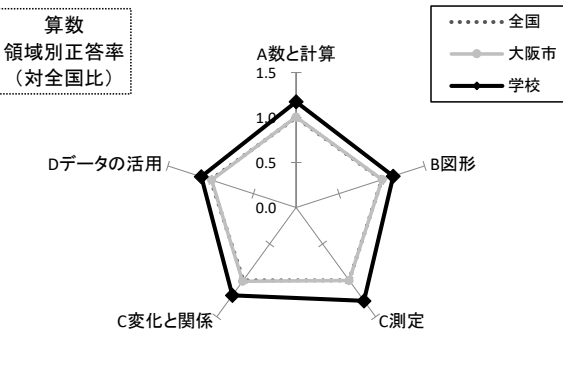
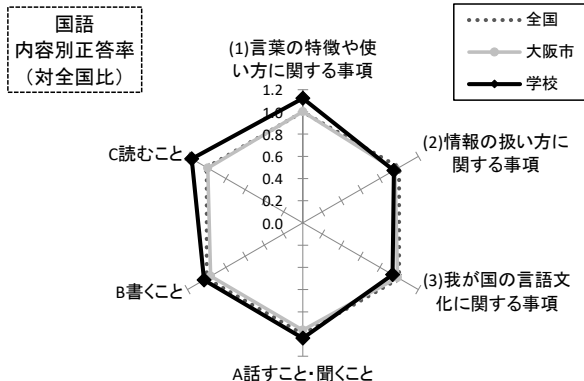
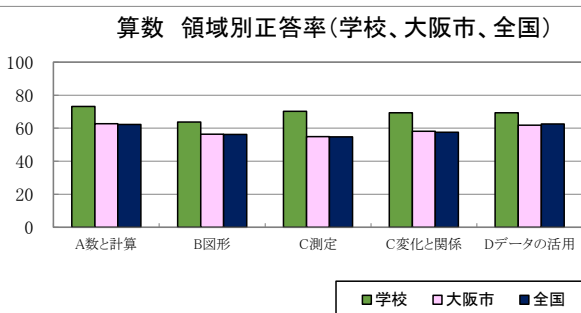
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	86.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	59.7	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	75.8	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.8	64.0	66.3
B 書くこと	3	71.5	66.7	69.5
C 読むこと	4	66.5	56.9	57.5



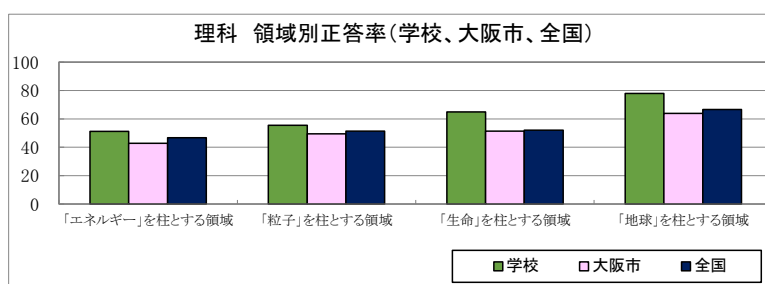
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	73.2	62.7	62.3
B 図形	4	63.7	56.4	56.2
C 測定	2	70.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	69.4	58.2	57.5
D データの活用	5	69.4	61.9	62.6

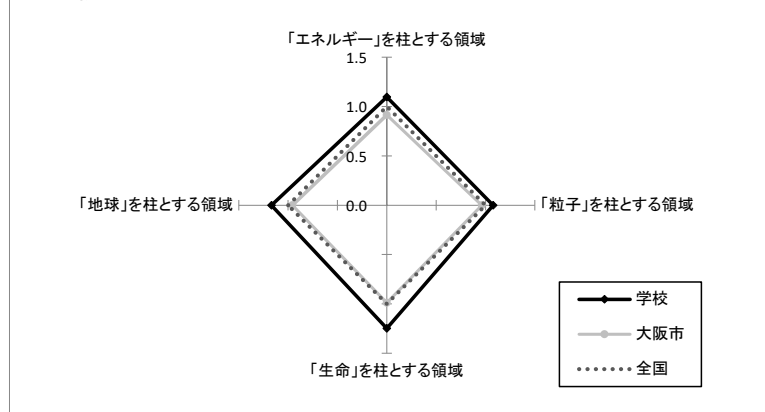


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域		対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	51.2	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	55.4	49.5	51.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	64.9	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	78.0	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

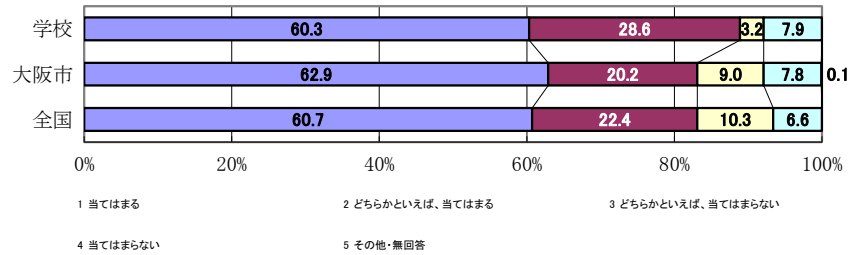
質問番号

質問事項

7

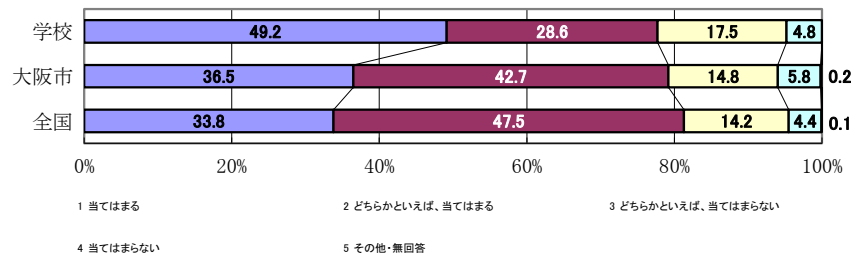
将来の夢や目標を持っていますか

1 2 3 4 5 6 7 8



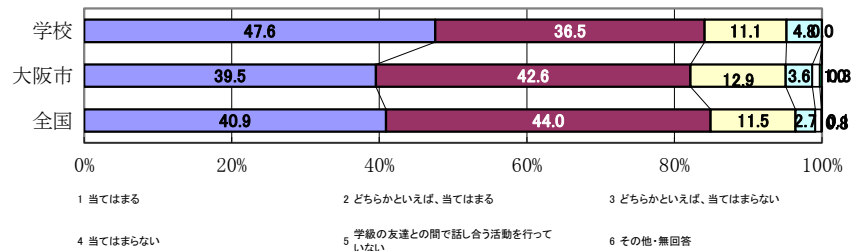
27

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



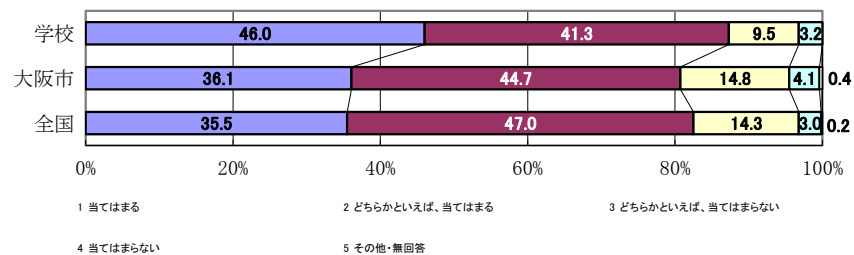
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



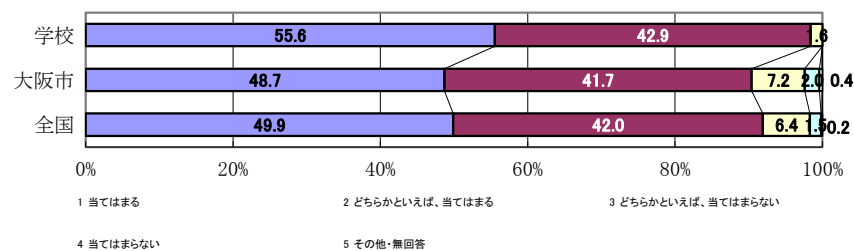
37

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができますか



39

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



学校質問より

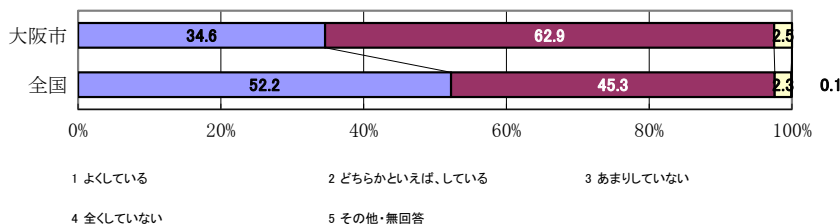
質問番号

質問事項

16

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

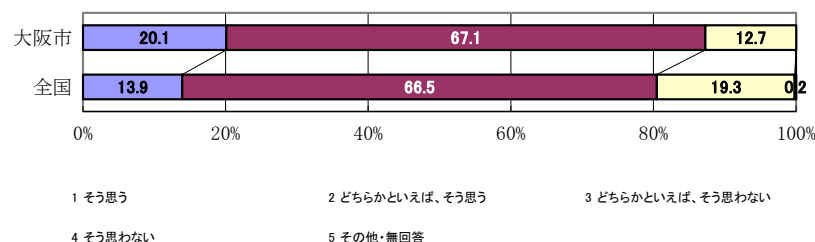
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

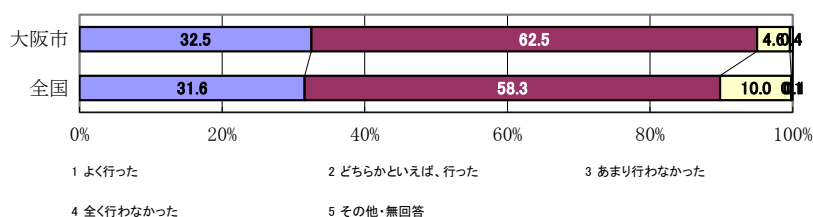
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

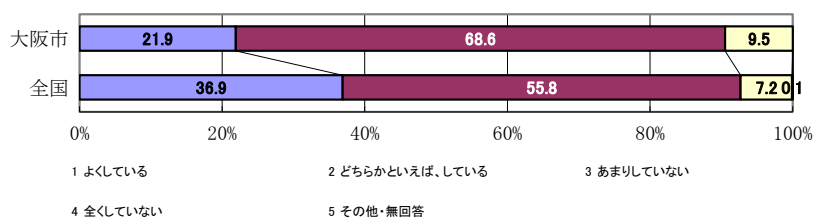
学校 「よく行った」を選択



36

調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか

学校 「よくしている」を選択



63

調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「週3回以上」を選択

